

# 北九州市「道路・河川・公園」雑草対策基本戦略

～ “未来” を創る持続可能な維持管理を目指して～

— 最終とりまとめ案（市民意見募集後） —

## 【 総論編 】

— 北九州市 都市整備局 —

令和8年5月14日

### 1. 背景（現状）

- 1) 『北九州市「道路・河川・公園」雑草対策基本戦略』とは
- 2) 地球温暖化などの気候変動の影響
- 3) 雑草が繁茂することによる課題
- 4) 除草コストの高騰による影響
- 5) 市民ボランティア団体の現状
- 6) 雑草に関する市民ニーズ
- 7) 戦略の必要性

### 2. 基本戦略の核心（4つの柱）

- 1) 基本戦略の核心と4つの柱
- 2) 4つの柱の考え方

### 3. 現状から考える今後の取組

- 1) 除草の時期の見直しとメリハリのある管理
- 2) 「総合的雑草管理」の考え方の導入
- 3) 協働の再設計
- 4) 効率化(新技術等の導入)の検討

### 4. 基本戦略がもたらす効果

### 5. 基本戦略の効果を持続可能にするための仕組み

# 1. 背景（現状）

- 1) 『北九州市「道路・河川・公園」雑草対策基本戦略』とは
- 2) 地球温暖化などの気候変動の影響
- 3) 雑草が繁茂することによる課題
- 4) 除草コストの高騰による影響
- 5) 市民ボランティア団体の現状
- 6) 雑草に関する市民ニーズ
- 7) 戦略の必要性

# 2. 基本戦略の核心（4つの柱）

- 1) 基本戦略の核心と4つの柱
- 2) 4つの柱の考え方

# 3. 現状から考える今後の取組

- 1) 除草の時期の見直しとメリハリのある管理
- 2) 「総合的雑草管理」の考え方の導入
- 3) 協働の再設計
- 4) 効率化(新技術等の導入)の検討

# 4. 基本戦略がもたらす効果

# 5. 基本戦略の効果を持続可能にするための仕組み

2

## 1. 背景（現状）

### 1) 『北九州市「道路・河川・公園」雑草対策基本戦略』とは

“未来”を創る持続可能な維持管理を目指して、  
地球温暖化の影響や除草コストの上昇など、  
雑草を取り巻く環境の変化に対応し、安全安心な生活環境を確保するため、  
将来の負担増加を抑えられる効果的・効率的な仕組みづくりの道筋を示すもの

#### 基本戦略の構成

- 本戦略は「総論編」と「各論編」で構成

##### 総論編

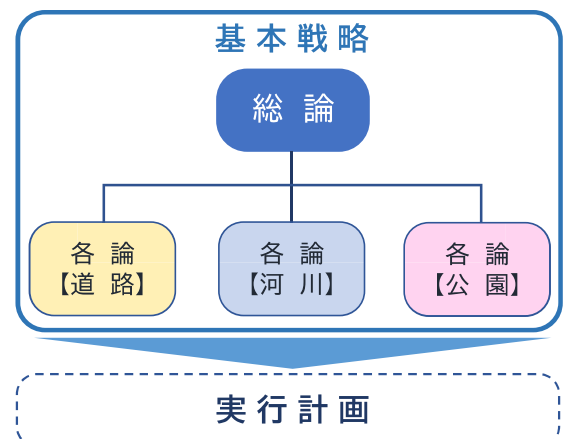
- ▶ 雑草対策を取り巻く現状と課題、基本戦略の必要性、多様な視点に立った基本的な考え方、及び今後の取組の方向性を整理

##### 各論編

- ▶ 道路、河川、公園それぞれの機能や役割、現状と課題を踏まえ、“あるべき姿”とその実現に向けた対策や取組の方向性を示す

##### 実行計画

- ▶ 着手可能なものから、速やかに実行していく



3

# 1. 背景（現状）

## 2) 地球温暖化などの気候変動の影響

### ■ 植物(草)の成長メカニズム（生物学的知見）



- 葉は光合成で栄養(デンプン 等)を作り出す
- 根は土壌から水と養分(窒素、リン、カリウム)を吸収
- これらの栄養を使い、根は重力に沿って下へ伸び、  
茎や葉は光を目指して上へ伸びる
- チガヤ等の多年草(夏草)の最適気温は30~40℃



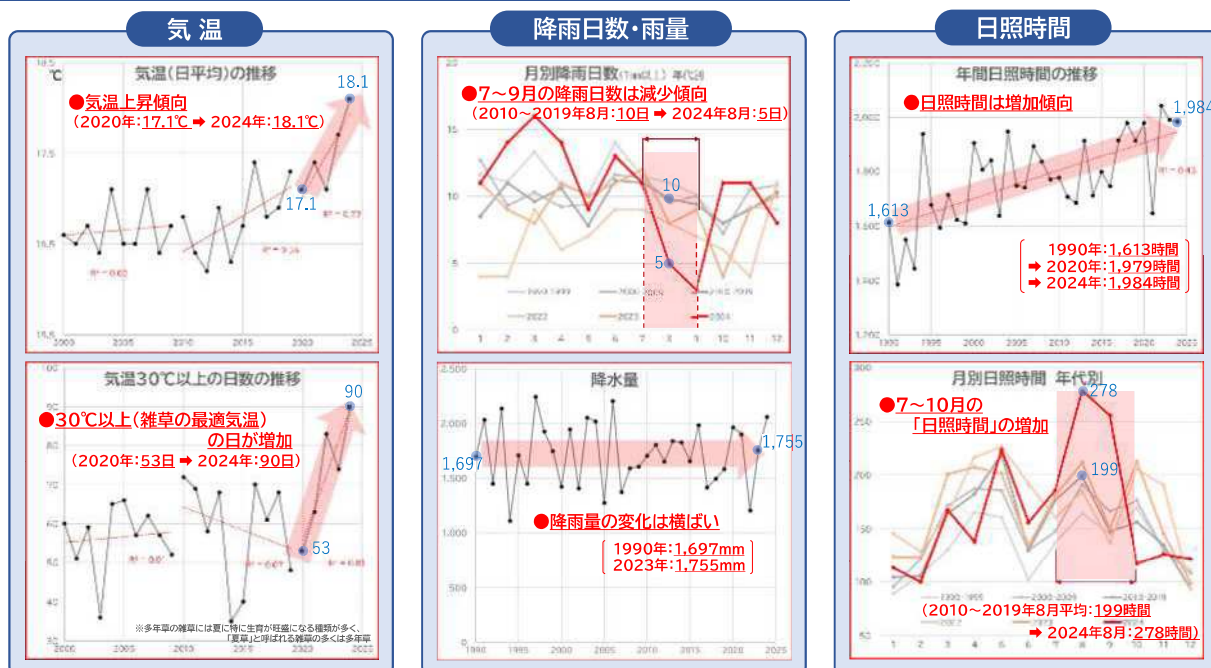
- ➔ 多年草(夏草)は“草刈りのみ”では茎や根が残るため、再び成長
- ➔ 温暖化に伴う 難防除雑草 の勢力拡大も  
除草を困難にしている一因

4

# 1. 背景（現状）

## 2) 地球温暖化などの気候変動の影響

### ■ 北九州市の状況【気候変動（2000年~2024年/福岡県・八幡観測所）】



- ➔ 草の成長の加速・長期化を助長する気候へ変動

5

## 1. 背景（現状）

### 2) 地球温暖化などの気候変動の影響

#### ■ 北九州市の状況【最近の草の生え方】

草の成長速度

●事例①

草刈り直前 6月

草刈り直後 8月

草刈り後 3か月経過 11月

●事例②

草刈り直前 6月上旬

草刈り直後 8月上旬

草刈り直後 8月下旬

草刈り後 4か月経過 12月上旬

※ 草刈り後、1か月経過(9月頃)時点でこの程度まで繁茂する状況

➡ 気候変動の影響により、草の繁茂が以前よりも勢いを増している

6

## 1. 背景（現状）

### 3) 雑草が繁茂することによる問題

まちの印象の悪化

土砂堆積を伴う水の流れの阻害

施設の利用性の低下

車からの視認性を阻害

歩きにくい河川遊歩道

見通し不良による防犯上のリスク増大

➡ 社会経済活動や市民生活への影響が拡大する可能性あり

7

# 1. 背景（現状）

## 4) 除草コストの高騰による影響

### ■ 近年の労務単価の推移



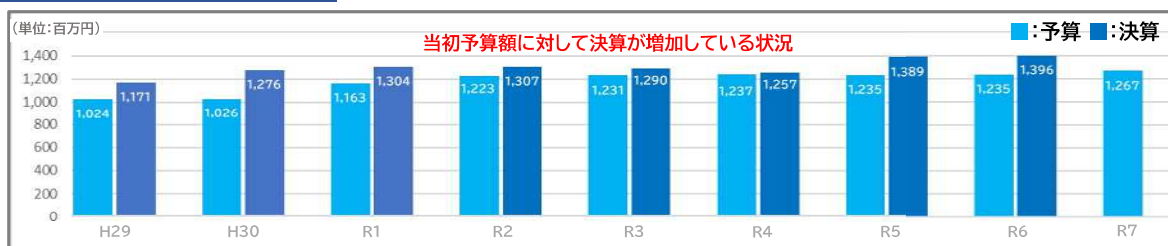
※国土交通省公表資料より

### ■ 直近5か年の除草コストの推移(㎡あたり単価)



※R7単価は、R2に比べて46円増  
(率にして21.8%増)

### ■ 除草費用の予算・決算の推移



➔ 除草コストの高騰等により、サービス水準低下が懸念される

# 1. 背景（現状）

## 5) 市民ボランティア団体の現状

### ■ 道路・河川・公園のボランティア団体

#### 道路

- 道路サポーター

【主な活動内容】  
・道路の清掃、花植え、除草

【加入団体数の推移】



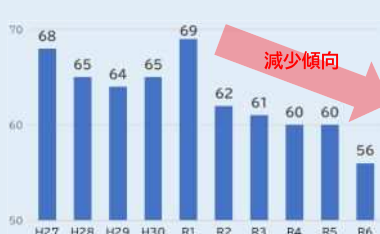
【これまでの取組】  
・認定要件の緩和  
(10人以上→5名以上)  
・オンライン申請の活用

#### 河川

- 河川愛護団体

【主な活動内容】  
・河川の清掃、除草

【加入団体数の推移】



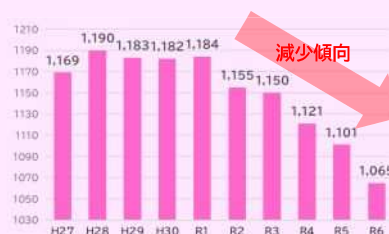
【課題】  
・河川愛護活動の奨励や、  
新規団体の加入促進が  
求められている

#### 公園

- 公園愛護会

【主な活動内容】  
・公園の清掃、花植え、除草

【加入団体数の推移】



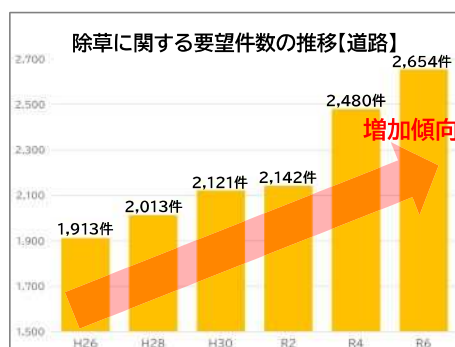
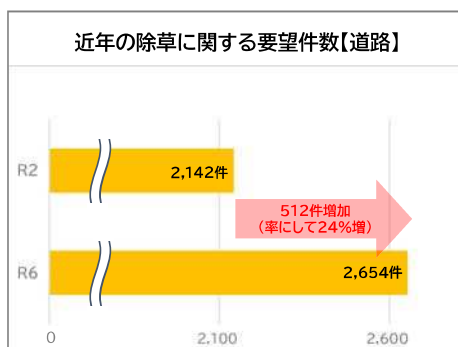
【課題】  
・公園愛護会の負担軽減や、  
新たな担い手の確保が  
求められている

➔ 高齢化により、公園愛護会などボランティアの担い手が減少

## 1. 背景（現状）

### 6) 雑草に関する市民ニーズ

#### ■ 除草に関する要望の増加



#### 最近の要望内容

- まち中の道路の雑草が伸び放題でとても汚い。車道に出る時も、見えにくくて危ない。
- 道路や公園の草が生えすぎて虫が多く、子供たちが安心して遊べない。車を運転していても草が邪魔して危険。
- 異常気象なのか、最近、まち中での雑草が目立つ。
- 最近草が生い茂っていて、まち全体が汚く見える。
- 市内どこも雑草だらけ。雑草の中はごみだらけ。
- まち中は草がぼうぼうで、景観を損ねているだけでなく、歩道等を占領し、ポイ捨ても助長している。
- 除草費はただの草刈り費用ではなく、景観などすべてにかかわる必要経費。再検討や工夫をお願いしたい。など

➔ 安全・衛生・景観に対する市民の価値観や意識の高まり

10

## 1. 背景（現状）

### 7) 戦略の必要性

- 近年の 気候変動 が 雑草の成長の加速 や 生育期間の長期化 を 助長
- 除草に関する要望が 増加
- 公園愛護会などの ボランティアの担い手が減少 など

➔ 現場では「現状維持もままならない」という状況が続いている

- 人件費や物価の上昇 などにより、除草に掛かる費用が高騰

➔ 従来のやり方のままでは「維持管理が困難」になっている

- 当分の除草水準を確保するため、財政負担の最適化を図る
- 中長期的に持続可能な仕組みの構築

11

## 1. 背景（現状）

- 1) 『北九州市「道路・河川・公園」雑草対策基本戦略』とは
- 2) 地球温暖化などの気候変動の影響
- 3) 雑草が繁茂することによる課題
- 4) 除草コストの高騰による影響
- 5) 市民ボランティア団体の現状
- 6) 雑草に関する市民ニーズ
- 7) 戦略の必要性

## 2. 基本戦略の核心（4つの柱）

- 1) 基本戦略の核心と4つの柱
- 2) 4つの柱の考え方

## 3. 現状から考える今後の取組

- 1) 除草の時期の見直しとメリハリのある管理
- 2) 「総合的雑草管理」の考え方の導入
- 3) 協働の再設計
- 4) 効率化(新技術等の導入)の検討

## 4. 基本戦略がもたらす効果

## 5. 基本戦略の効果を持続可能にするための仕組み

12

## 2. 基本戦略の核心（4つの柱）

### 1) 基本戦略の核心と4つの柱

### 効果的・効率的で

**将来の負担増加を抑えられる仕組みの構築**に取り組む

#### 4つの柱

- ① メリハリをつけた管理
- ② 総合的雑草管理（IWM）の考え方の導入
- ③ 協働の再設計
- ④ 効率化（新技術等の導入）

13

## 2. 基本戦略の核心（4つの柱）

### 2) 4つの柱の考え方

#### 1) メリハリをつけた管理

- ▶ 安全確保、景観や生態系の保全とともに、利用実態等を踏まえた効果的な管理

#### 2) 総合的雑草管理（IWM）の考え方の導入

- ▶ 除草と草が生えにくい構造等を適所で効果的に組み合わせる「総合的雑草管理」の考え方の導入により、除草頻度とコストの上昇を中長期で抑制

#### 3) 協働の再設計

- ▶ 自治会等のボランティアの方々等との役割分担等を再整理し、高齢化時代に対応した“無理のない協働体制”を再設計

#### 4) 効率化（新技術等の導入）

- ▶ 企業等との連携による最新技術等の導入等による少ない人員で作業品質を維持できる体制構築に挑戦

14

## 1. 背景（現状）

- 1) 『北九州市「道路・河川・公園」雑草対策基本戦略』とは
- 2) 地球温暖化などの気候変動の影響
- 3) 雑草が繁茂することによる課題
- 4) 除草コストの高騰による影響
- 5) 市民ボランティア団体の現状
- 6) 雑草に関する市民ニーズ
- 7) 戦略の必要性

## 2. 基本戦略の核心（4つの柱）

- 1) 基本戦略の核心と4つの柱
- 2) 4つの柱の考え方

## 3. 現状から考える今後の取組

- 1) 除草の時期の見直しとメリハリのある管理
- 2) 「総合的雑草管理」の考え方の導入
- 3) 協働の再設計
- 4) 効率化(新技術等の導入)の検討

## 4. 基本戦略がもたらす効果

## 5. 基本戦略の効果を持続可能にするための仕組み

15